

九州大学経営協議会議事録

日時：平成26年1月23日(木) 13:00～15:00

場所：九州大学本部第一会議室

出席者：27名中21名出席

【審議事項等】

1 理学系施設の整備に伴う長期借入金の認可申請について

理学系総合研究棟施設整備に必要な経費に係る長期借入金の認可申請を文部科学省に行うことについて説明があり、審議の結果、これを議決した。

2 中期目標・中期計画の変更について

マス・フォア・インダストリ研究所の共同利用・共同研究拠点認定に伴う中期目標の変更並びに国立大学の機能強化の推進、重要な財産の譲渡、PFI事業の追加及び地球社会統合科学府新設による入学定員変更等に伴う中期計画の変更について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような意見等があった。

・さまざま画期的なことをやられているが、国際教養学部や新規採用教員は原則5年間英語による授業を行うことなど、それぞれこの第二期中期の期間内でやるということか。

国際教養学部は設置に向けた検討体制を整備ということで、第三期の前半に設置できるよう取り組んでいく。英語による授業は、順次そのような人材を採用していく。既に自主的に行っているところもある。

・「適切な業績評価体制を整備し、年俸制を導入・促進」とあるが、国立大学法人の給与財源との関係もあると思うが、どのように進めるのか。また、全教員を年俸制にするのか。

現在、仕組みを検討しているところ。全教員というのは難しい。不利益にならないようにしなければならず、財源の問題もある。資料6の文部科学省が示した「国立大学改革プラン」の10ページに年俸制についての記載もある。国からこういったことが求められており、それを受けて中期計画に反映させている。

・外国人教員5%以上、女性研究者10%以上といった数値目標があるが、現在は何%くらいになっているのか。

外国人は4%弱、女性研究者は12%程度だったと思う。女性研究者については、さらに高い目標を持っており、目標に限りなく近づいている。

・国際教養学部について、資料6の23ページの九州大学のところだけ国際教養部の設置とはっきり書かれているが、具体的なイメージはあるのか。

文科省のグローバル30という事業に申請するときに、先に国際教養学部をイメージし、そのための準備のために申請した経緯がある。具体的なイメージはあるが、第三期の前半の設置を目指して今後さらに検討していくため、もっと詰めてからお話したい。

3 給与の臨時特例に対応した特例措置について

12月24日に経営協議会（書面開催）において審議し議決した給与の臨時特例に対応した特例措置を実施することについて報告があった。

4 借入先金融機関の決定について

理学系施設移転整備事業に係る資金調達のための借入先金融機関の決定について報告があった。

5 平成26年度予算及び平成25年度補正予算（第1号）の内示について

平成26年度予算及び平成25年度補正予算（第1号）の内示について報告があった。

なお、以下のような意見等があった。

・国の予算を効果的に使う必要があると思うが、教育について、経済団体と一緒に人材育成に取り組んでいくことも重要だと思う。

博士課程リーディングプログラムなどは大学だけではなく企業の側からも講師として来ていただいたり、インターンシップも行う。またオールラウンド型の社会的リーダーを育成する決断科学プログラムでは、かなり多くの企業に参加していただくなど、様々な事業で経済界と連携しながら取り組んでいくこととしている。

・文科省全体の施策の話にもなるが、教育機関における国際化について、第三期の中期計画ではどういうポリシーでやっていくのか。九州で国際教養学部をどう展開するのか。日本の中で英語で授業をやるよりも、どんどん外に出て行くようにするべきではないか。

これからのグローバル化というのは、我々は、自分のところでできることを具体的に提案し、それを国に支援してもらうように働きかけていくべき。留学生を呼び込むだけでなく日本人が出て行かなければならないが、内向きと言われているのは英語に慣れていないからということもある。英語で授業を行うことにより、一人一人が英語に慣れ、チャンスがあれば外国に出て行くようになる。まずは、そういうことから取り組むことも重要だと思う。

6 国立大学改革プランについて

文部科学省から出された「国立大学改革プラン」の内容について報告があった。

7 大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）（中央教育審議会大学分科会組織運営部会）

中央教育審議会大学分科会組織運営部会の審議まとめ「大学のガバナンス改革の推進について」の内容について報告があった。

（ 以 上 ）